

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	実践につなげている。 みどり合同会議、1F会議、2F会議、カンファレンスや申し送りを通して、法人の理念やGH運営の基本方針を確認し、サービス提供を実施している	法人としての理念の他にみどりとしての目標理念をもって、みどりの合同会議、又ユニットごとの会議を月1回開く中で職員に徹底している。グループホームとしての基本を常に職員間でも共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	日常的に交流している。 地域においては消防避難訓練を実施したり、区民による歌舞伎や小学校の音楽会・保育園の運動会、お正月には地域の獅子舞、地域住民や自治会長、民生委員を招いての夏祭り(納涼祭)を実施したり、地域との交流を図っている	コロナ禍で地域とのふれあい機会が減っていたが、今後は今まで行ってきたものに加えて、駐車場側にウッドデッキを作り花を植えて水やりをするなど企画している。地域住民との納涼祭を復活させていく。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	活かしている。 区の自治会長・民生委員・消防部長などに運営に関して会議を開催して、現状報告・問題などを提起してお互い意見交換をし、地域貢献を図っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	協力関係を築くよう取り組んでいる。 申請書についても郵送に頼らず、窓口に行き、コミュニケーションを図っている。行政主催の集まりにも参加して連携を図っている。また、地域包括支援センターから利用者の相談を受け、支援の方法を模索し、可能な限り対応している。	コロナ禍で会議の開催は行われていないが、2か月に1回委員に文書で状況報告を行い、アンケート式で意見を求めている。今後は、会議の開催が難しい場合、コミュニケーションをとるために委員に手渡しで資料配布を行いたいとのことである。	少しずつ運営推進会議の開催もできると思うので、メンバーの選考、会議の中に研修要素を盛り込むなどの工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	協力関係を築くよう取り組んでいる。 申請書についても郵送に頼らず、窓口に行き、コミュニケーションを図っている。行政主催の集まりにも参加して連携を図っている。また、地域包括支援センターから利用者の相談を受け、支援の方法を模索し、可能な限り対応している。	運営推進会議資料、その他の用件についても持参して窓口で話すようにして、情報を得たり、助言をもらっている。運営推進会議のアンケート返信もあり、行政との関係は良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	取り組んでいる。 2か月に一度、法人として全体研修があり、職員は身体拘束についての理解ができており、身体拘束をしないケアを行っている。	マニュアルは法人のものを使用している。 ハーモニック東部の研修とズームによるオンライン研修を実施している。パートや必要と感じた職員も積極的に研修会に参加させている。事例研修を中心に実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	取り組んでいる。 2か月に一度、法人として全体研修があり、職員の理解ができており、常日頃の対応についても注意を払っている。		

グループホーム材木町みどり 1F・2F

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	活用出来るように支援している。 この地域は社協が窓口になっており、独居の老年寄りが将来財産上の問題が浮上、予想される場合には相談をしており、また本人が希望した場合などは司法書士などに関わって頂いている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	十分な説明を行い、理解・納得を得ている。入所時・解約時・改定時などには十分な説明を行っている。特に金銭的なことについては(介護保険料金改訂など)、トラブルを回避するため、利用者家族から承諾書を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営に反映させている。 常日頃意見を言えるように、玄関に意見箱を設置したり、常時進言できる体制を作っています。また、運営推進会議に利用者家族参加、家族参加による納涼祭やクリスマス会を開催して職員・家族同士の話し合いの場を設けている。その中で家族の意見をくみあげている。	玄関に意見箱を置いているが、投函はほとんどないのが現状である。電話や、家族などの訪問時の対話の中で聞き取るようにしている。内容は伝達している。これから行事の場などを通じて聞いていくようにしたい。年1回ぐらい独自のアンケートをとるのもいいと思っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	反映させている。 月1回の合同ミーティング・各グループホームのミーティングにおいて、職員の意見・要望を聞く機会を設けている。	月1回の定例会議、朝礼、申し送り時などに職員意見を聞き取るようにしている。また、意見は言いやすい雰囲気づくりを心がけ、身上相談などを含めて相談などはよくある。衛生防災委員会が設置され、ハラスメント、ストレス管理を行っている。	建設的な職員意見を求めるために、外部研修への参加、グループホームとしての基本理念の徹底など、職員教育を充実させることを望みます。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	努めている。 年2回の評価表を実施しており、給与・賞与に反映し、労働条件については職場環境・個人の休暇の希望を取り入れ職員の要望に応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員を育てる取り組みをしている。 法人内で2か月に1回の研修会を設けている。また介護技術向上のための研修会もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	取り組みをしている。 行政主催の集まりなどに参加したり、職種に応じた研修会や勉強会に参加して、サービスの質向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	努めている。 家族・本人から可能な限り、今までの生活や、育ってきた環境などについてお聞きし、要望に沿うよう介護計画やケアに活かしている。施設で楽しく、穏やかに生活できるように交流機会を確保している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	関係づくりに努めている。 入所する前にご家族からの要望などをお聞きしている。また、入所後も定期的に連絡を取り、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	努めている。 入所時にご本人及びご家族からの要望などお聞きし、介護計画の作成やサービス提供に努めている。また、他の方法もあることなども含め提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	関係を築いている。 職員は利用者本人のADLに応じて、お茶配り・配膳・食器拭き・洗濯物たたみなど一緒に行っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	築いている。 面会や電話などでご本人の状況などお話しさせていただいている。また、外出の機会や外泊の機会を確保させていただいています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	支援に努めている。 近所の方が見えたり、家族の面会など、いついらしでも受け入れており、面会規制はしていない。	コロナ禍で面会規制があり、なかなか気軽に面会は出来なかったが、今後は解放していきたい。なじみの美容理容には来てもらっている。友達などとは窓越し面会しかできなかったが、今後は交流が深まりそうである。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	支援に努めている。 レクリエーションや行事では、それぞれの方が出来る事を提案して実施している。利用者同士の交流では職員が仲介したり、声掛けをして間に入り支援している。また、ボランティアさんが来所されるときには、全員が参加できるように声掛けしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	相談や支援に努めている。 退所して、同法人内の施設に移られても、相談を受けたり、経過を見守っている。また、ご自宅に戻られても関係機関やご家族、ご本人と連絡調整など行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	努めている。入所時に家族・本人の希望をお聞きして記録表に記入している。また、好きなこと・嫌いなこと、また趣味なども把握して、一人一人の暮らしの中での経験を日々の生活の中に活かすよう取り組んでいる。	入所時のアセスメントはしっかりできており、生活状況を把握してケアにあたっている。ひもときシートを使っているのが特徴である。生活歴も記録されている。アニマルセラピーで猫とのふれあいが効果的である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	努めている。 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方などについては入所時に聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	努めている。 一人ひとりの状況について、業務日誌・日課記録表により現状把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	作成している。 本人や家族の希望などをお聞きしてプランに反映している。必要な関係機関とも話し合い意見をお聞きしている。また、GH会議などでも検討して、反映している。	アセスメント、カンファレンスと、担当・ケアマネ・管理者が関わり全体で作る計画を意識して作成している。必要に応じて以前の利用施設の担当や家族にも意見を聞くこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	活かしている。 業務日誌や個人経過記録に記入している。また職員の申し送りノートで情報の共有を図っているし、必要があれば介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	取り組んでいる。 家族や利用者様の相談に応じ、要望や要求に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	支援している。 地域とのかかわりを大切に、小学校の運動会や音楽会への参加などを行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	支援している。 主治医は法人内の診療所が担当しており、容易に診てもらえる。定期以外の臨時の受診は家族に様態・状況を説明して納得を得られている。受診表を提出して、即対応されている。他医院の受診もある。	ほとんどの人が法人医師の診療を受けている。月1回の医師の巡回が行われ、他の医院の受診も個別に行われている。法人医師のところで、全体の健康状態が把握されている。緊急時の対応も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	支援している。 みどり内の看護師、法人内の訪問看護、病棟看護師、ハーモニック東部看護師と連携を図り、常日頃相談して、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係づくりを行っている。 病院に入院した際にはサマリーにて、こちらの情報を提供して、入院中においては、ムンテラなどに参加させてもらい、常に情報を共有できるように努めている。そして早期に退院できるように相談もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	取り組んでいる。 入所時に急変した場合、重度化した場合、この施設で可能な医療・介護などの内容について、十分説明をし、理解を得ている。他院に移る場合などは家族・本人に希望を聞き、家族が選んでいただくようにしている。	急変時の同意書がある。医療的な部分の説明は、診療所医師が行っている。日々の変化に対してこまめに報告して医師の指示を受けながら対応している。レベル低下の場合は24時間対応の施設への移動、診療所入院などの対応がとられている。看取りは今までにはない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	実践力を身につけている。 法人全体での研修会などで訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	協力体制を築いている。 スプリンクラー、火災通報装置が設置されており、防災訓練も年2回実施している。また、区の役員や消防団も参加している。	ハザードマップでは、土砂災害の地区である。東小学校が避難場所になっている。年2回の避難訓練、1回は夜間想定で実施している。備蓄品のチェック表を作り管理している。BCPはまだ作成されていない。	BCPの作成に努力してください。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	対応している。 言葉がけには細心の注意を払っており、また、入浴時や排泄時には露出部分が極力少ないように配慮している。	個別の話は、個室や相談室を利用している。 言葉がけでは赤ちゃん言葉にならないよう、指示・命令・強い言葉でいうのは避けるようにしている。対応の間違っている職員についてはその場で注意するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	働きかけている。 職員サイドで決めるのではなく、できるだけ本人が決定できるように、選択肢ができるような質問をするなど心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	希望に沿って支援している。 起床時間や食事時間などその人のペースに合わせて過ごしていただくよう支援している。実際に遅い食事時間の方や早い食事時間の方もおられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	支援している。 家族から衣類をお預かりし、週2回の入浴後本人と相談して衣類を選んでいる。2か月に1度美容師が訪問して利用者の要望に応じている。その方によっては、地域の理髪店に行かれる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	支援している。 好き嫌いを把握し、適した食形態を提案している。また、それぞれの能力に応じて役割分担している。お茶くみや食器拭き、簡単な調理などやっていたいでいる。	おかずは冷凍品使用、ごはんと味噌汁は施設で作っている。料理の形態は、利用者の能力を加味して提供している。また、食事に彩りを添えるために家族に好みの食品の提供をお願いしている面もある。利用者は好き嫌いなくすべて完食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	支援している。 食事摂取量や水分摂取量については毎回記録している。脱水にならないように気を付けている。また、法人の管理栄養士との連携がとれている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	している。毎食後口腔ケアを行っており、就寝の際には義歯の洗浄を行っている		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	支援を行っている。常に排泄チェック表をつけており、そのかたにあった排泄方法に努めている。できる限り、トイレで排泄できるように努力している。実際に要介護4・5の方をリハビリパンツにてトイレを使用し、2人で介助し排泄を行っている方がいる。	現在布パンの人が2人、リハパン+おむつが14人。2階ユニットで3人の人がトイレ自立している。終日おむつの人が2人いて定時交換をしている。排泄記録はタブレット端末で管理している。トイレ誘導で自立を促している様子がわかる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	取り組んでいる。排便の周期のチェックをし、水分摂取を促したり、運動を進めたり、便秘にならないようにしている。便秘傾向の人には主治医に薬を処方していただいている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	個々に沿った支援をしている。現在曜日での入浴になっていますが、入りたくない方は別の時間帯や別の日に入ってもらっています。朝一番が良い方は、そのように対処しています。	入浴は基本週2回、午前の入浴となっている。入浴拒否の人については後ろ向きに誘導する。風呂にはバラを浮かべたり、音楽をかけたり楽しく入浴できるよう工夫している。どうしても入浴できない人は、清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	支援している。利用者それぞれの生活パターンを職員は理解しており、休みたい時などは、自室かホールのソファなどで休んでいただいたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	確認に努めている。それぞれの利用者が服用されている薬については、薬剤情報提供書を称津診療所からいただいており、職員は把握している。服薬に関しては職員が管理して、飲むまでの確認は常に行っている。状態変化時は主治医に相談し指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	支援している。入所時やその後のカンファレンスや日々のお話の中で合った役割、趣味嗜好を把握している。その方の能力にあった役割分担をしており、本人の希望に沿って献立を変更したり、戸外活動を行ったり、好きなことをして頂いて気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	支援している。地域の歌舞伎見学や小学校や保育園の行事に参加したり、外食で回転ずしや一般の食堂に出かけたり、百貨店やスーパーにでかけ、買い物気分を味わったりして気分転換を図っている。	今までコロナでなかなか思うように外出もできなかったが、地域行事への参加や外食、スーパーでの買い物など、少しずつ復活させていきたい。	

グループホーム材木町みどり 1F・2F

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	支援している。 それぞれの利用者の状況に応じ、家族との話し合いでわずかな金額を預かったりして、本人の希望・要望に沿って対応している。また、本人自身が所持されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	支援している。 入居者様が家族や知人などに連絡したい時は電話にて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	工夫している。 とかく施設内であると、季節感に疎くなってしまう傾向があるので、月ごとのカレンダーづくりや季節に応じての外出を行い、また、毎日ラジオ体操を行い、廊下を歩行訓練の場として行ったりして居心地良く生活できるように工夫している。	共有スペースが広く、みんなゆったり過ごしている。2階にはソファがあり、好きな人は日がなそこで過ごしている。広いフロアを利用してラジオ体操をやっているが、全員の参加は難しい。利用者の作品展示など温かい雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	工夫している。 ホール・居室では気の合った者同士でテレビを見たり、みんなでゲームをしたり、また、一人で新聞を読んだり、思い思いに過ごしていただけるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	工夫している。 今まで生活されてきた背景を考慮して、馴染みの物をお持ちいただくようにしており、人によっては遺影や仏壇を居室に持参されている。本人の希望に沿えるようにしている。	希望する者はなんでも持ち込めることができるようになっている。ただ石油ストーブは不可。仏壇は線香、ろうそくの使用はお断りして電気のろうそくをお願いしている。家族写真などは持参してもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	工夫している。 利用者各々がこの施設での生活が安全に安心して暮らせるように、廊下には障害になるものは置かないようにして安全性を確保している。また、居室やトイレの場所などが分からない方のために案内板を設置して、一人で行動できるようにしている。		